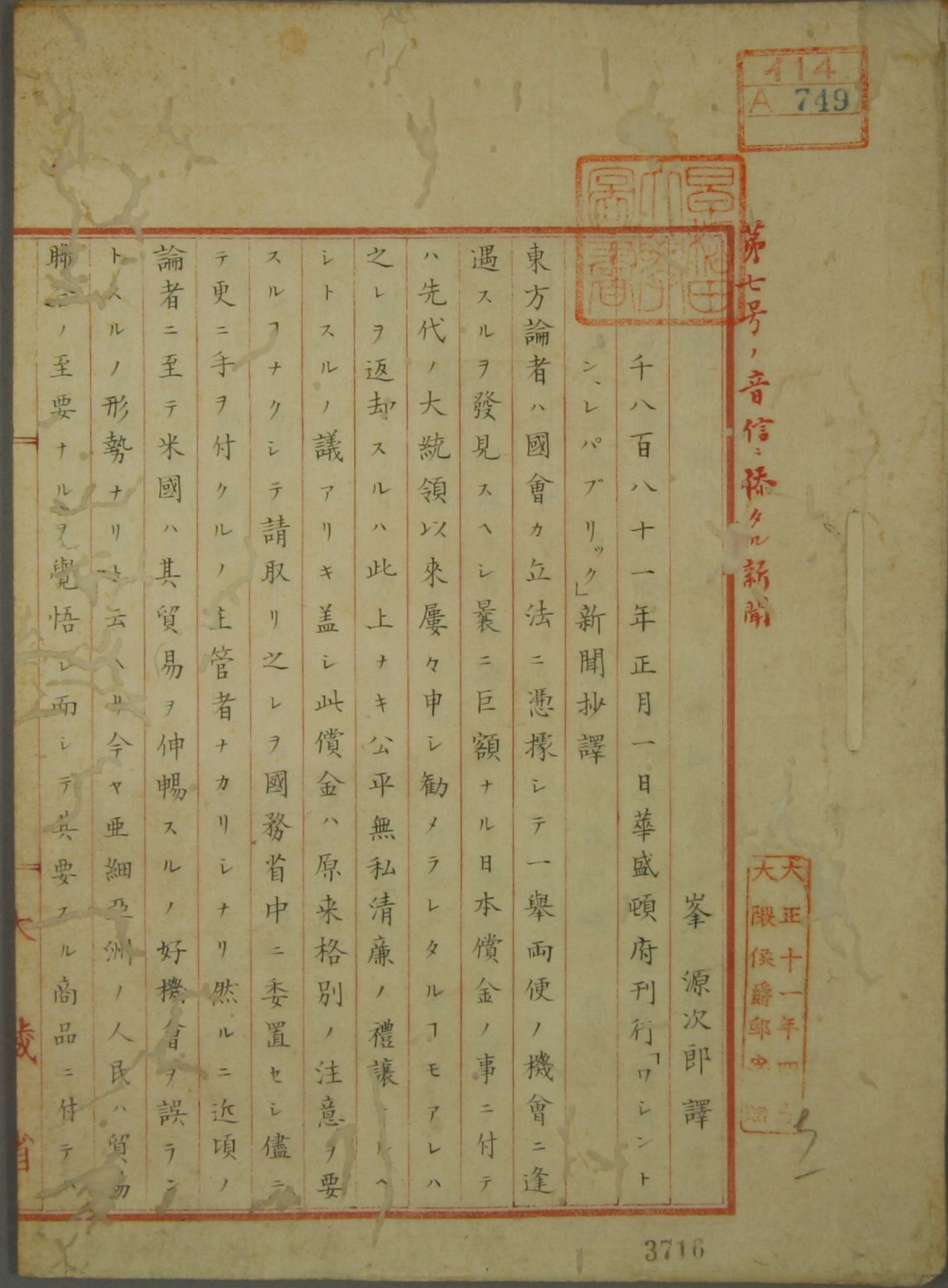
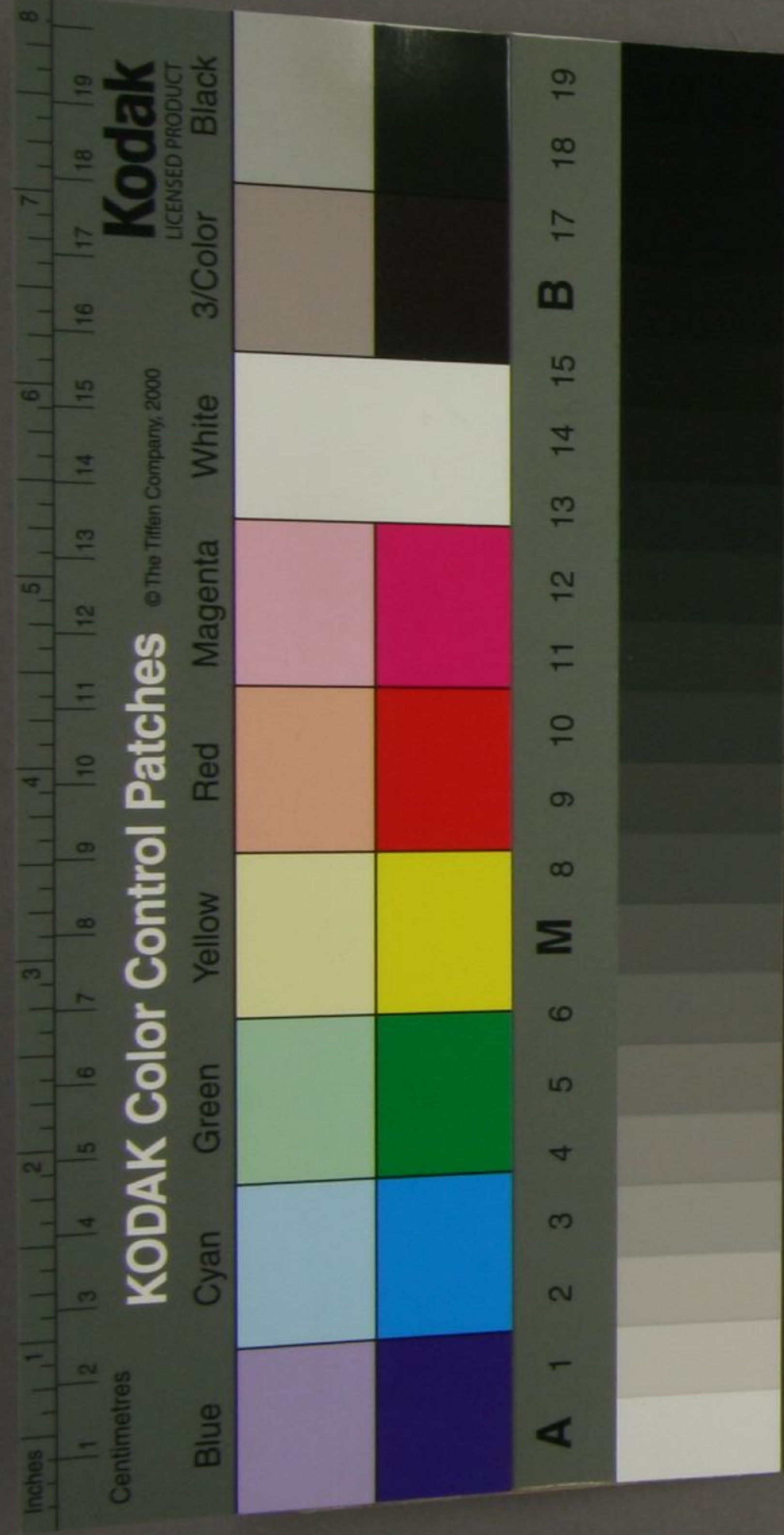




414
A 749

第
七
号
音
信
係
タ
ル
新
聞

第
七
号
音
信
係
タ
ル
新
聞

大
天
限
正
十
一
年
四
月
二
日

峯
源
次
郎
譯

千八百八十一年正月一日華盛頓府刊行「ワシントン・レパブリック」新聞抄譯

東方論者ハ國會カ立法ニ憑據シテ一舉兩便ノ機會ニ逢
遇スルヲ發見スヘシ曩ニ巨額ナル日本償金ノ事ニ付テ
ハ先代ノ大統領以來屢々申シ勸メラレタルヲモアレハ
之レヲ返却スルハ此上ナキ公平無私清廉ノ禮讓ニ
シトスルノ議アリキ蓋シ此償金ハ原來格別ノ注意ヲ要
スルヲナクシテ請取リ之レヲ國務省中ニ委置セシ儘ニ
テ更ニ手ヲ付クルノ主管者ナカリシナリ然ルニ近頃ノ
論者ニ至テ米國ハ其貿易ヲ伸暢スルノ好機會ヲ誤ラン
トヘルノ形勢ナリ云々今ヤ亞細亞洲ノ人民ハ貿易
聯ニ至要ナルヲ覺悟レ而シテ其要ナル商品ニ付テハ

英國品ヨリモ米國品ヲ冀望スルモノ
如シ然レハ米國
ハ貿易交通ヲ増殖スル
政策ヲ用ヒ
ルナリ之レニ及
レテ英國ハ其力ノ及
フ所口何レノ地ニモ
貿易交通ヲ増
殖セント汲々勉勵
ヤリ固ヨリ米國ハ
英國ニ及ハサル
遠ケレハ速ニ活發
有力ナル同盟者ノ
助力ヲ得ルヨリ外
ニ仕方ナカルヘシ
試ニ思ヘ今斯ニ米
國ノ爲ニ有益ナル
同盟者アリヤ且ツ
又タ若シ此ノ同盟
者アリトセハ其司
盟ノ高誼ヲ維持保
有スル爲ニハ米國
ハ何等ハ處分ヲ爲
スヘキヤ如何斯ニ
其解明ヲ爲スノ問
題アリ國會ヨ其レ
少シク察スル所
アレ

苟モ誠心正直ナル
人ハ誰ニテモ右問
題ヲ解明スルヲ得
ヘシ夫レ日本ハ亞
細亞大陸ニ於テ其
ノ鎖鑰ヲ掌握シ直
ニ其權力ヲ隣境
ナル東方諸國ノ上
ニ振ヒ因テ以テ米
國

ノ案内者トナルヲ
得ヘシ是レ米國カ
日本ヲ補助スレハ
彼レ亦タ我ニ酬ハ
ント必然ナレハナ
リ幸ニ米國ハ自カ
ヲ費用ヲ出ストナ
クシテ日本ノ大ニ
欲スル所ノモノヲ
濟スルノ位置ナリ
日本カ大ニ欲スル
所ノモノハ純然タ
ル獨立ニシテ現行
定約中ノ一二不正
ノモノヲ免カレン
ト欲スルナリ此一
二不正ノモノト云
フハ米國カ友愛ノ
誠實アリテ見ル日
ニハ日本ニ取リテ
ハ堪忍成リ難ク米
國ニ取リテハ充分
無益ノモノナリ現
今更ニ懇親ノ誠實
上ヨリシテ製セシ
定約ニ依レハ右兩
國間ニ生スル困難
ヲ輕減スルモノアル
ヘシ而シテ彼ノ正
路ニ依ラスシテ
要請セシ償金ヲ手
初ノ處分トシテ速
ニ返去ルニ於テ
ハ是ニ由テ大ニ後
患ノ言用ヲ表スル
ニ足ルヘシ又ク
其海關稅ヲ支配ス
ルノ權ヲ米國カ承
諾セサルハ是

レ其モ日本カ米國ニ向テ愁訴スルノ一ナリ故ニ米國カ
若シ其定約書ニ於テ有害ニ款條ヲ廢スルニ於テハ日本
ハ第一ニ米國ノ貿易上ニ特別ノ利益ヲ與ヘ其報酬ト
ナシ其後迎モ充分ニカラ盡シテ米國ノ裨益トナリテ我
ヲレテ東方亞細亞ノ商業ヲ支配スルニ至ラシムヘシ今
又日本カ米國ノ裨益トナルヘキ勢力ハ既ニ充分ナレハ
此後十年ハ非常ノ極度ニ至ルヘシ米國カ其裨益ヲ爲ニ
施行^{セザルベカラザル}トハ自然相當ナル義務ノ少カラ盡ス
ヘキトナリ此ノ義務ノ第一ニ盡サハルヘカラサルトニ
テ最モ容易ナルモノハ彼ノ償金返却ノ一事ナリ故ニ是
レヲ以テ一舉兩得ノ便利ナルヘシトハ云フナリ即チ誠
實ナル一個ノ處分ニ由テ一方ニ向テハ久敷ク米國ノ体
面ニ掛リタルモノヲ一掃シ又タ一方ニ向テハ米國貿易

上實益ヲ興スノ方法ヲ開始スルヲ得ヘキナリ

